

## 阿武隈山地の生態系と野生生物 (暫定版)

2012年7月14日 日本技術士会技術士CPD中央講座(111回) 参考資料  
(石田 健)

阿武隈山地は、宮城県南部～福島県東部～茨城県北部の南北約170kmに亘る低標高の峰と細かい渓谷が織りなす地域です。

ています。標高1,192mの大滝根山(北緯37度21.3分・東経140度42.1分)、標高995mの移ヶ岳(北緯37度29分・東経140度37分)、標高967mの鎌倉岳(北緯37度28分・東経140度

41.3分)、標高952mの蓬田岳(北緯37度15.9分・東経140度32.1分)などの残丘群の周辺に標高600m程度のなだらかな山稜、緩斜面がひろがっています。地質は、主として古期花崗岩からなり、古生界～中生界の砂岩・石灰岩・変成岩類、古第三系、新第三系も分布しています。老年山地特有の上流から下流まで続く幅の広い浅い谷が、細かく山地全域に入っています。低標高の峠も、山地のあちらこちらにあります。

東の太平洋岸には、幅5～10km程度の平野が南北に続く「浜通り」、西側の奥羽山地との間には、阿武隈川沿いの郡山市や福島市、二本松市といった福島県の主要都市、東北新幹線や東北自動車道、国道4号線などの主要交通路のある「中通り」、の南北に細長い2つの平地があります。

気候は、冬の月平均気温が1～4℃、夏は24～25℃の比較的冷涼な冷温帯で、夏に降水量が多く冬に少ない太平洋型です。

冬には降雪があって根雪となります。天然林の発達した区域には、モミ、イヌブナ、イヌシデ、ケヤキ、トチ、サワグルミ、イタヤカエデなどが生育し、スギやヒノキの植林も混在しています。なだらなか谷頭部の扇状地では、放牧、稲作、花卉栽培、等の農業が営まれており、飯館村や川俣町、田村市、川内村など中央部の高原状台地の区域には比較的広い農耕地と広葉樹二次林の、いわゆる里山、山里の生物多様性の高い生態系が広がっています。



## 阿武隈山地の野生動物

哺乳類は、イノシシ、キツネ、タヌキ、アナグマ、ニホンザル、ニホンリス、アカネズミ、ヒメネズミ、アズマモグラ、ヒミズ、キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、ニホンテングコウモリ等が生息しています。

シカは少数個体の生息が確認されており、分布地点は散在し、以前養鹿が行われていたことから、飼育していたものが逃げた個体である（そのような個体が混じる）可能性も指摘されています。主に、北部の宮城県方面から移入のある可能性があるものの、生息密度は現在は未だ低い状態です。イノシシは、図（環境省、自然環境基礎調査報告書）にあるように全域に生息し、痕跡も多く、観察頻度も高い種です。ツキノワグマは定着していないという説が優勢ではあるものの、ニホンミツバチの巣を補食した例など、不定期には出現していることが確認されています（吉田ほか私信）。

鳥類は、ウグイス、ヒヨドリ、ホオジロ、ホトトギス、ハシブトガラス、シジュウカラ、キジ、カワラヒワ、メジロ、キジバト、ガビチョウ（外来種）、コゲラ、スズメ、オオヨシキリ、ハシボソガラス、カッコウ、ツツドリ、モズ、アオゲラ、キセキレイ、ヤブサメ、ムクドリ、ハクセキレイ、ツバメ、キビタキ、サンショウクイ、アオサギ、ヒガラ、ヤマガラ、カケス、サシバ、ハイタカ、イカル、オオルリ、ミソサザイ、ヒバリ、アオバト（以上、2012年6月の38地点における定点観測の出現頻度の多い順）、コサギ、ミゾゴイ、カルガモ、オシドリ、オオタカ、ノスリ、チョウゲンボウ、トビ、フクロウ、ヤマドリ、ヤマセミ、カワセミ、アカゲラ、オオアカゲラ、セグロセキレイ、カヤクグリ、トラツグミ、ツグミ（冬）、コルリ、コガラ、エナガ、キバシリ、カシラダカ（冬）、オナガ等が生息しています。

石田が、浪江町、葛尾村、川俣町、二本松市、田村市を中心にした地域において、2012年7月、8月、10月、12月、2012年2月、3月、5月に計8回の定点調査および任意観察を実施した範囲では、ウグイスとホオジロが広い範囲で観察され、ノスリも山地の谷で多く観察されました。

参照資料) 日本地名大百科 ランドジャポニカ, 小学館 (1996) / ウィキペディア (日本語版) / 国土地理院地図閲覧サービスホームページ / YAHOO JAPAN 地図 / Google Earth / 福島県の山のホームページ / 環境省自然環境基礎調査第3, 5, 6回報告書 (鳥類・哺乳類) /

図16. イノシシの全国分布メッシュ

